

新年度予算、第1回町議会定例会で可決

「人間愛ある子育て支援」、松岡町 長5つの柱で行政執行

24年度一般会計、4特別会計(国民健康保険、簡易水道事業、公共下水道事業、町立診療所)の各予算審議を行う東川町議会第1回定例会が会期9日間で開かれ、総額約59億6千900万円あまりの新年度予算がいずれも全会一致で可決成立しました。(3ページから13ページ、関連14、15ページ)



東川町議会第1回定例会は3月6日から同月14日まで会期9日間で開かれ、新年度一般会計予算案5件、23年度一般会計、同年度3特別会計補正予算案、東川町インフォメーションセンター道草館条例の制定など議案24件、報告1件を審議、可決しました。

同会最終日の14日、開会初日に急逝した故岡村裕司前教育長の後任として、同日に東川町を退職した林万里前地域活性課長を町教育委員に任命

同意しました。

第1 はじめに

昨年は東日本大震災を始め、なにかと暗いニュースが日本全国を覆いましたが、今年是人々のご尽力により元気で笑顔がいつぱい、明るいニュースが多い年になりました。特に東日本大震災による被災地の皆さまの一日も早い復興を期待したいと思います。

さて、行政執行に当たつての基本となる柱については平成23年度の行政執行方針の中でも申し上げてきていますが、引き続き5つの柱の展開に全力を尽くします。

1. 人間愛のある子育て支援

と個性ある教育の充実

2. 安心で楽しい高齢社会の創造(長寿化社会への対応)
3. 活力と意義のある地域づくり活動の展開
4. 元氣溢れる産業の自立支援
5. 健全財政の運営

5つの柱の実現化を図るに当たり、次の「知る」「実現する」「考える」を大切にしたい夢と希望のある、楽しい、かつ余白(遊びと疎)のある行政を「知力と行動力」の結集により展開し、より住民福祉の向上に努めます。

1. 過去に学び知る

過去の時代において、その時々々の行政は最高の施策を展開してきたと評価しています。しかし、想定を遥かに超えた時代の変遷とともにプラス効果のあるもの、逆にマイナス要因となっているものについて学び、知ることに努めます。

2. より良い状態を実現する

過去に学び、知ることによって、今を生きている人々の暮らしがより向上し、安心で安全な生活を送ることができより良い施策を実現するこ



岡村 裕司氏(おかもら・ひろし)東川町教育長
3月6日午前11時20分、急性心筋梗塞(こうそく)のため東川町立診療所で死去。62歳。

1972(昭和47)年4月、東川町事務吏員。産業課農政係兼畜産係を振り出しに、税務課、選挙管理委員会事務局、総務課長補佐、農林課同、保健衛生課同、保育所長、町立保育園長(兼地域子育て支援センター所長)、東川町教育委員会学校教育課長、東川町企画総務課長兼政策室長を歴任しました。2008(平成20)年10月から教育長。2002(同14)年に新設なった幼児センターの計画段階から施設開設にかかわりました。



東川町幼児センター(兼地域子育て支援センター)は、国内初めての幼児保一元保育施設。幼稚園と保育園の機能が一体となった幼児保育の認定実現に奔走しました。

教育長就任後は、東川町立東川小学校の全面移設建て替えの事業計画で、住民、保護者の皆さんから理解を得るため調整に務め、新年度からの計画の具体的推進に向けて準備を重ねていくところでした。

第1回定例会の初日、町議会議場で新年度教育行政執行方針を説明するために登壇していました。説明途中、突然言葉が詰まってその場に崩れるように倒れ、すぐに救命処置を施しましたが、約1時間後に亡くなりました。謹んでお悔やみ申し上げます。